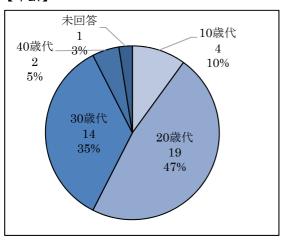
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを利用している若者への アンケート調査概要

ひきこもり等子ども・若者相談支援センターでは、当事者の方たちの実情や思いを理解することを目的に、当センターの利用者へのアンケート調査を実施しています。

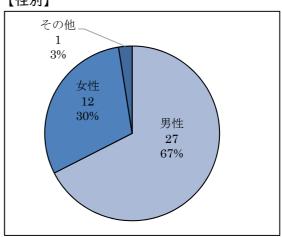
この集計結果は、令和4年6から8月までの間で、担当相談員から案内した配布数 59 部のうち、郵送または窓口、必要に応じ面接相談の中での聴き取り、オンラインにて回答を得た 40 部 (回答率 67.8%) についてまとめたものです。

あなた自身についておしえてください

【年龄】

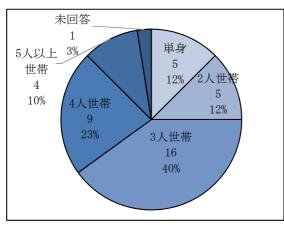


【性別】

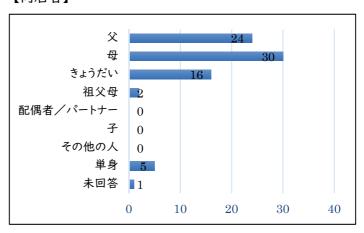


回答者の年齢層は、10 歳代が 10%、20 歳代が 47%、30 歳代が 35%、40 歳代が5%でした。また、男性が67%、女性が30%、その他3%でした。

【現在同居している人数】

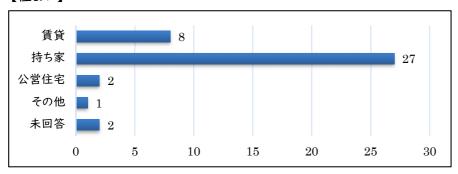


【同居者】

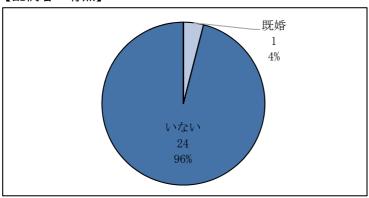


同居人数は、3人世帯が 40%と一番多く、単身世帯と2人世帯が 12%ずつでした。同居者としては、母、父、 きょうだいの順で多くなっています。

【住まい】

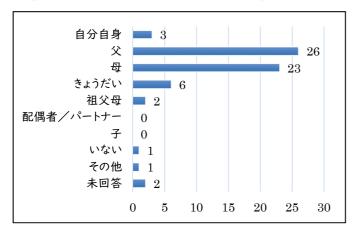


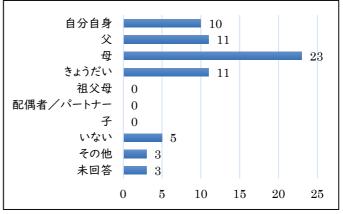
【配偶者の有無】



【経済的に支えている人(複数回答可)】

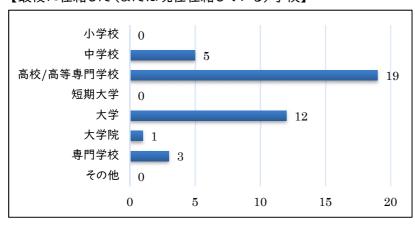
【精神的に支えている人(複数回答可)】





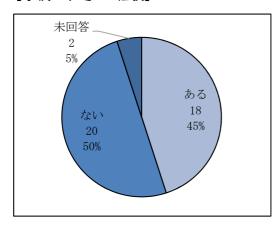
経済的に支えている人は、「父」「母」が多くなっています。精神的に支えている人は、「母」が多く、一方で「いない」と答えた人も5人いました。

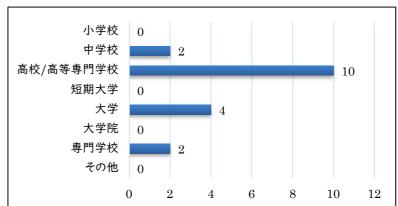
【最後に在籍した(または現在在籍している)学校】



【学校を中退した経験】

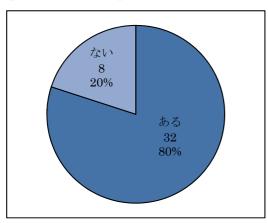
【中退した学校】(中退経験が「ある」人のみ回答)



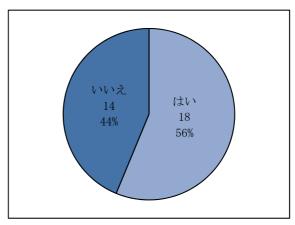


「ひきこもり」について

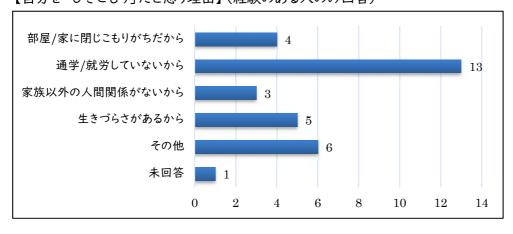
【ひきこもりの経験】



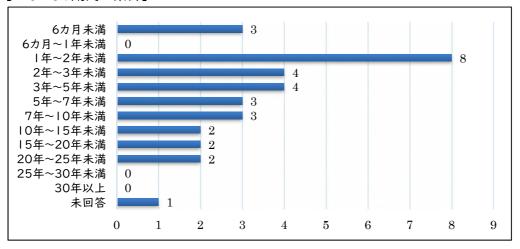
【現在、ひきこもりの状態にあるか】(経験のある人のみ回答)



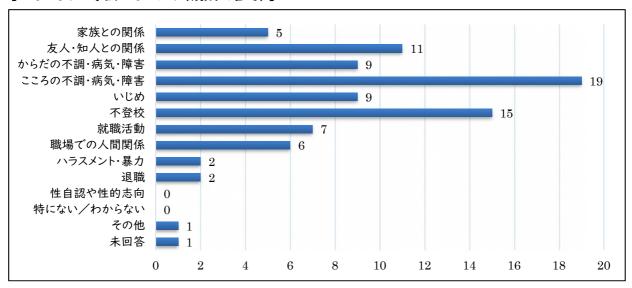
【自分を「ひきこもり」だと思う理由】(経験のある人のみ回答)



【ひきこもり期間の累計】

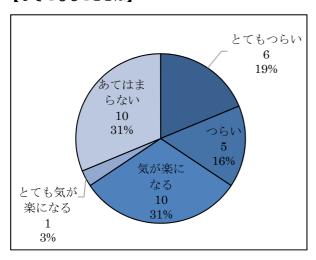


【ひきこもりの原因やきっかけ(複数回答可)】



これまでにひきこもりだったことがあると答えた人の思う、その原因やきっかけは、「こころの不調」が一番多く、次に「不登校」、「友人、知人との関係」と続きます。また、原因やきっかけは、ひとつではなく、多くの人が複数選択していることから、複雑で多様であることがうかがえます。

【ひきこもることとは】

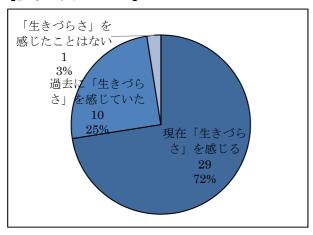


自分にとってひきこもることとは、「つらい(とてもつらい・つらい)」「気が楽になる(とても気が楽になる・気が楽になる)」がそれぞれ約30%ずつあります。決して楽をするためにひきこもり状態にあるわけではなく、一方で苦しい状況に対して自分を守るための手段であることもうかがい知れます。

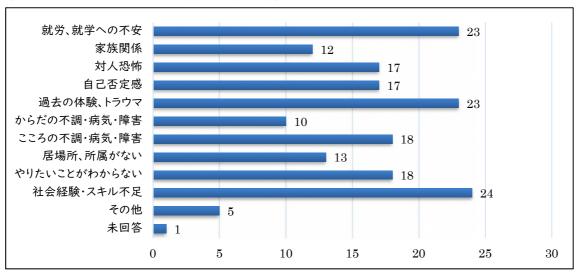
また、「あてはまらない」が約30%と同じだけあることや、「つらい」と「気が楽になる」の両方の選択肢に丸を付けた人もいたことからも、どちらとも選びきれない複雑な思いが感じられます。

生きづらさについて

【生きづらさについて】

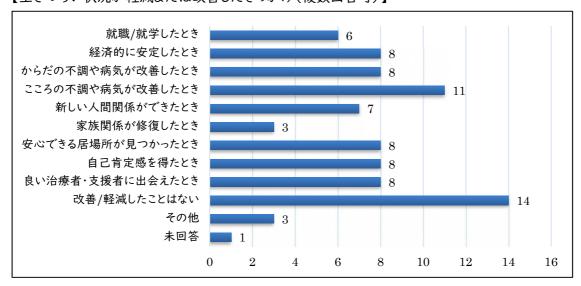


【生きづらさは何に由来するか(複数回答可)】

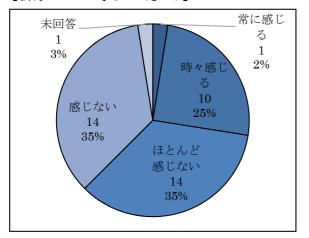


97%の人が「生きづらさ」を感じています。生きづらさの由来は、ひとつではなく、多くの人が複数選択をしています。自由記述では、これまでの体験から社会や人への恐怖心、自信のなさがあること、就労等将来への不安があること、そのような自分を責める気持ちが語られていました。

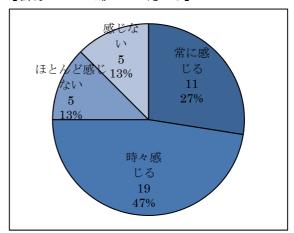
【生きづらい状況が軽減または改善したきっかけ(複数回答可)】



【自分のことを好きだと感じる】



【自分のことを嫌いだと感じる】

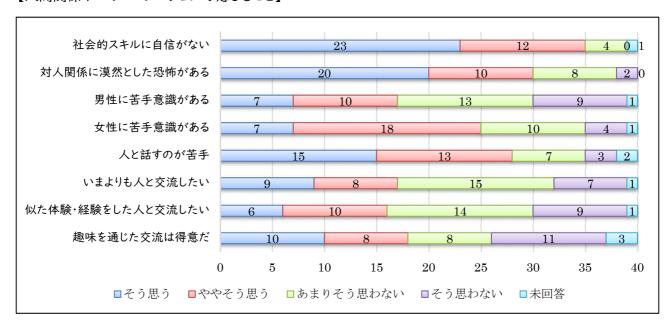


自分のことを好きか嫌いかについて、「好きだと感じない(ほとんど感じない・感じない)」が 70%、「嫌いだと感じる(常に感じる・時々感じる)」が 74%でした。

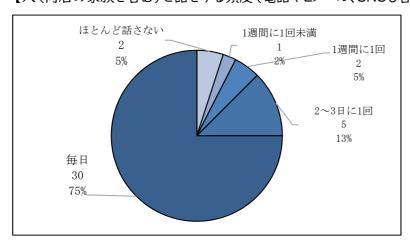
自分のことを好きか嫌いかの回答のクロス集計をしたところ、「好きだと感じない(ほとんど感じない・感じない)」かつ、「嫌いだと感じる(常に感じる・時々感じる)」が50%をしめる結果でした。また、「好きだと感じない」かつ、「嫌いだと感じない」を選択している人も一定数いることも特徴的でした。

コミュニケーションについて

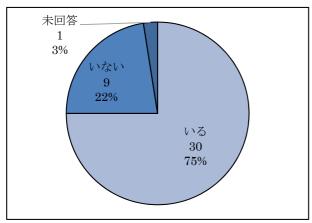
【人間関係やコミュニケーションで感じること】



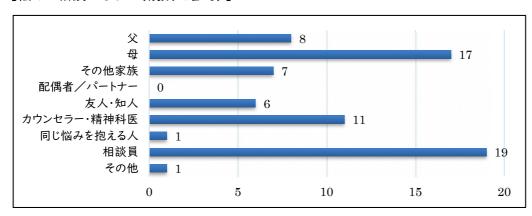
【人(同居の家族を含む)と話をする頻度(電話やEメール、SNSも含む)】



【悩みを相談できる人】



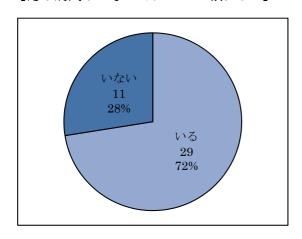
【悩みを相談できる人(複数回答可)】



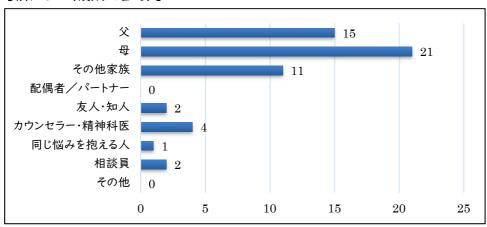
悩みを相談できる人が「いる」と75%の人が答えています

相談支援センターを利用している人にとって、相談員(カウンセラー)が、家族以外でも相談できる存在になっていることがうかがえます。

【急な病気など身の回りのことを頼れる人】



【頼れる人(複数回答可)】



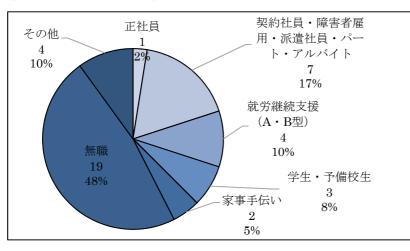
身の回りのことを頼れる人が「いる」と72%の人が答えています。

一方で、「悩みを相談できる人」と同様に、身の回りのことを頼れる人が「いない」と約2割の人が感じていて、孤独や孤立の状態にある姿が想像されます。

また、「悩みを相談できる人」と「身の回りのことを頼れる人」の両面において、「母」の支えを頼りにしている ことも特徴的です。

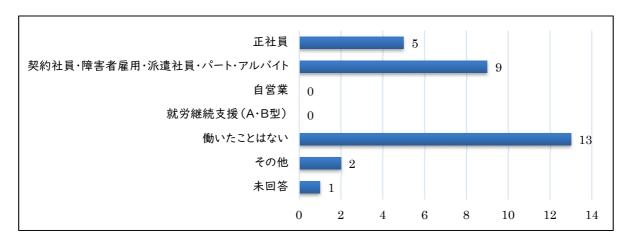
仕事について

【現在の就学・就労状況】



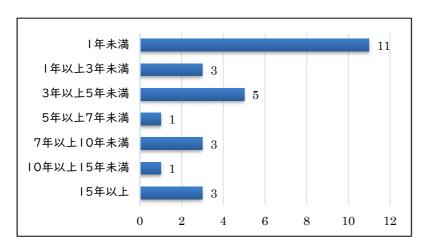
現在の就学・就労状況については「無職」が 48%、「契約社員等」が 17%、「就労継続支援」が 10%です。

【過去に働いていたことがある(現在就労していない方)(複数回答可)】

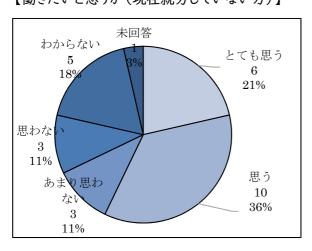


現在就労していない方で、過去にも「働いたことはない」人が一番多いが、「契約社員等」や「正社員」で過去に働いたことがある人も多くおられます。

【就業期間の累計(学生時代のアルバイトは除く)】

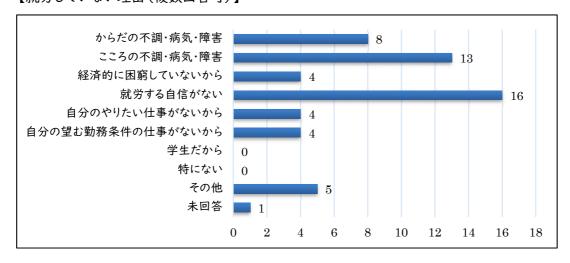


【働きたいと思うか(現在就労していない方)】



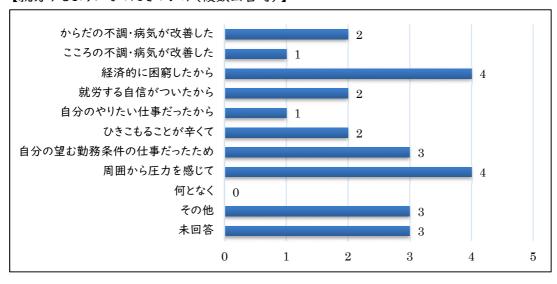
現在就労していない方で、「働きたいと思う(とても思う・思う)」が半数以上の57%、「思わない(あまり思わない・思わない)」が22%、「わからない」が8%でした。

【就労していない理由(複数回答可)】

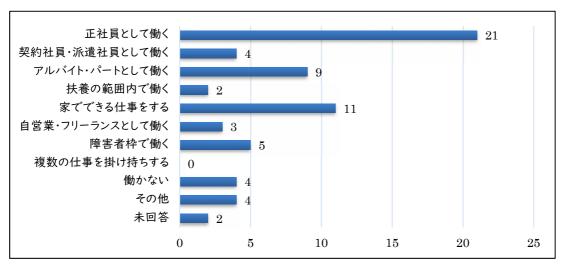


「就労する自信がない」、「こころの不調」や「からだの不調」が理由で、就労が難しいと感じている人が多くいます。前項目で、半数以上の人が「働きたい」と思っていることからも、これらの背景を抱えながら「働きたい」という葛藤を持っていることもうかがえます。

【就労するようになったきっかけ(複数回答可)】

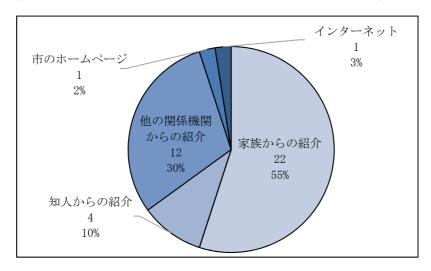


【理想の働き方(複数回答可)】

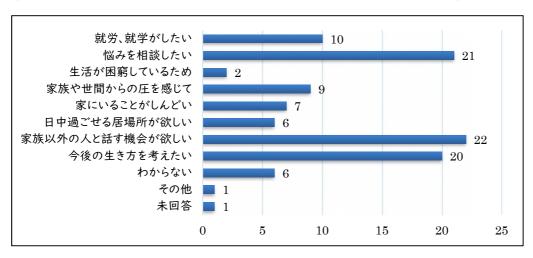


ひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて

【ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを知ったきっかけ】



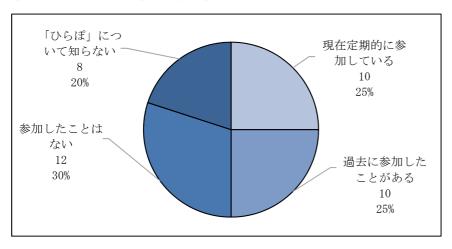
【ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを利用する理由(複数回答可)】



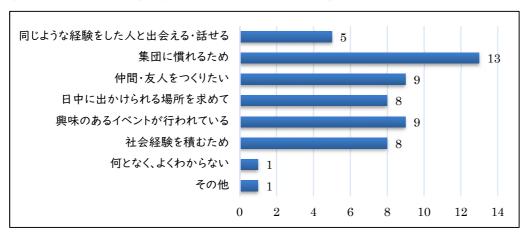
相談支援センターを利用する理由としては、「家族以外の人と話す機会が欲しい」、「悩みを相談したい」、「今後の生き方を考えたい」が多くあります。

居場所支援「ひらぽ」について

【居場所支援「ひらぽ」への参加】



【居場所支援「ひらぽ」に参加する理由(複数回答可)】



居場所支援「ひらぽ」に参加する理由としては、「集団になれるため」、「仲間・友人をつくりたい」、「興味あるイベントが行われている」が多くあります。

【「ひらぽ」に参加しない理由(過去に参加経験あり)】【「ひらぽ」に参加しない理由(参加経験なし)】

